



臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1
電話：03-3541-5151
担当者の所属・氏名 脳神経外科 望月 達城

【研究責任者】

聖路加国際病院 脳神経外科 岡田 芳和

当院でくも膜下出血で入院された方を対象とした

脳血管攣縮の予防・治療薬に対する研究

1.研究の対象

2022年10月から2023年3月までに当院脳神経外科、神経血管内治療科でくも膜下出血に対して開頭術もしくは血管内治療などの急性期治療を行い、くも膜下出血後の脳血管攣縮予防、脳血管攣縮治療に対してクラゾセンタン(商品名:ピヴラッツ)を使用した患者さんを対象としています。

2.研究の目的・方法

くも膜下出血は、脳血管のこぶ(脳動脈瘤)の破裂によって引き起こされる重大な疾患です。くも膜下腔には脳を栄養する脳血管が走行しており、くも膜下出血では脳血管が血液によって覆われます。血液により覆われた脳血管は、その刺激により過度に収縮することが知られており、この状態を脳血管攣縮と言います。くも膜下出血発症から4-14日頃までに起こりやすいと言われており、脳血管攣縮が強くなることで脳血流の低下を来し、脳梗塞を生じることがあります。

従来、脳血管攣縮の治療には塩酸ファスジルやオザグレルナトリウムの点滴治療が行われてきましたが、この度、大規模な研究結果をもとに、世界初となる脳血管攣縮治療薬であるクラゾセンタン(商品名:ピヴラッツ)が我が国で使用可能となりました。クラゾセンタンは血管収縮に関わるエンドセリンという物質を拮抗する事により血管攣縮を予防するとされ、脳血管攣縮による脳梗塞予防に有用であることが示されています。

本研究では、くも膜下出血後の脳血管攣縮予防にクラゾセンタンを使用した患者さんにおいて、その後の治療経過や画像検査を詳細に検討し、くも膜下出血後の脳血管攣縮治療の新たな知見を得ることを目指します。なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録(カルテ)に記載される内容についての調査のみとなります。

調査期間は当法人研究機関の長の実施許可後～2025年3月31日までの予定です。

3.研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

《情報》 病歴、治療歴、診療画像、副作用等の発生状況、カルテ番号 等